

泌尿器科プログラム（腎移植センターを含む）

【泌尿器科とは？】

泌尿器科とは、尿路生殖器およびその関連臓器の疾患を治療対象とする外科の一分野です。具体的には、尿路に含まれる臓器として腎・尿管・膀胱・尿道、男性生殖器である前立腺・精巣上体・精巣、さらに副腎などの後腹膜臓器などの疾患が対象です。泌尿器科ではこれらの臓器に発生する腫瘍、感染症、結石症、先天疾患などさまざまな病態を扱います。泌尿器科の特徴は、疾患を診断することから始まり、病状や患者のニーズに応じて最良の治療を選択し、自身で一貫して診療にあたれることです。さらに腫瘍・結石・感染症等の一般泌尿器科以外に、小児泌尿器科、腎移植、老年泌尿器科、女性泌尿器科、アンドロロジー（男性不妊症・男性機能障害）などのサブスペシャリティに細分化されています。診療の中心の一つである手術では、腎・副腎・膀胱に対する腹腔鏡手術や「daVinci」を用いたロボット支援下手術、尿路内視鏡手術、開腹手術など多彩な手術を行っています。手術以外にも悪性腫瘍に対する放射線療法・抗がん化学療法、感染症に対する抗菌薬療法、腎移植後の免疫抑制療法などのさまざまな補助治療にも精通しています。高度高齢化社会においてますます社会のニーズが増加しているため、意欲と才能に満ちた若い医師の力を多いに必要としており、さまざまな活躍の場が準備されている診療科です。

【後期研修（3年目～5年目）の目標】

卒後3年目からレジデントとして3年間の後期研修を行います。この3年間では初期研修の2年間で培った医師としての基本的素養を充実するとともに、泌尿器科専門医として診療を行うための知識・技術を習得する事を目標とします。後期研修3年目以降は関連の一般病院泌尿器科（宝塚市立病院・明和病院・西宮市立中央病院・千船病院・協立病院など）における学外での泌尿器科専門研修も予定されています。

レジデント研修の目標は、下記のとおりです。

- 1) 医師としての基本：患者さんに愛情を持って接し、患者の精神的苦痛・不安・家庭的社会的問題に対する配慮ができる。
- 2) チーム医療：同僚の医師・看護師・技師はじめ医療従事者、他の医療施設との連携ができる。
- 3) 標準治療の実施：診療ガイドラインあるいは標準的治療に沿った基礎的知識と治療技術を習得する。責任感を持ってエビデンスに基づいた治療ができる。
- 4) 学会発表・論文発表：科学的・論理的思考を身に付ける。

卒後3年目の医師が将来泌尿器科医としての実力を身に付け、泌尿器科専門医となるために日本泌尿器科学会への入会が必要です。入会後の最初の目標は泌尿器科専門医認定取得です。研修期間は、初期研修（2年間）＋泌尿器科専門研修（4年間）の合計6年間です。後期研修1年目の4月～6月の間に教育施設（代表指導医）と学会の専門医制度審議会に研修開始宣言（研修同意書）を行うことにより、専門医制度審議会に登録されます。専門医認定取得は、レジデント3年間を終了した翌年（卒後6年目）の秋に専門医資格試験を受験すること、さらにそれまで認定基準を満たした研修をおこなったことを証明する書類を提出することにより認定審査資格が得られます。当院泌尿器科で後期研修医として研修開始宣言をし、当科で日々の診療業務に従事し、指定された学会主催の講習会を受講することにより、実質的に学会の定める研修目標を達成することができます。

【泌尿器科での実際の研修（業務）はどのようなものか？】

- (月) 7:30 症例検討 9:00 手術 17:30 病理カンファレンス（病院病理部と合同）
(火) 8:30 病棟業務 13:00 X線透視検査/前立腺・移植腎生検 18:00 症例検討/勉強会
(水) 7:30 症例検討/放射線カンファレンス（放射線部と合同）/教授回診 9:00 手術
(木) 8:30 病棟業務 17:30 腎移植カンファレンス（腎・透析内科および関連部門と合同）
(金) 7:30 症例検討 9:00 手術
(土)（第1、3、5土曜のみ）午前のみ病棟業務

レジデントとして働く最初の1年間は上級医とのペアリングでの診療を行いますので、疑問点は早急に解決していく事ができます。同時に自己判断能力も養成されていきます。後期研修の基本業務は、担当する入院患者さんへの医療行為です。手術目的の患者さんでは特に周術期の全身管理を中心に行います。その他には抗がん化学療法、前立腺生検・移植腎生検、X線透視検査（尿管カテーテル留置）、その他の緊急処置など様々な状況における医療を実践します。泌尿器科診療には他科の医師・看護師・技師などと密に連携した診療が不可欠ですが、このようなチーム医療を実践することにより幅広い技術・知識・経験が蓄積されていきます。

当科の特徴として、後期研修1年目から執刀術者または第一助手としての手術技術の習得を奨励しています。後期研修1年目には尿路内視鏡手術の執刀術者として、開放手術・腹腔鏡手術・ロボット支援下手術の第一助手として手術に参加します。後期研修2年目には開放手術や腹腔鏡手術の執刀術者としての機会が積極的に与えられます。後期研修の3年目には多くのレジデントが執刀術者として腹腔鏡下または開放腎摘除術を施行することができるようになります。

【卒後3年目の他部署研修について】

総合診療能力のスキルアップのため、下部消化管外科、産科婦人科、腎・透析内科、小児外科またはその他希望する科で、3ヶ月間研修を行うこともできます。

【関連病院】（下線病院は卒後3年目以降の臨床研修として派遣実績のある病院です。）

宝塚市立病院、西宮市立中央病院、明和病院、千船病院、協立病院

【指導医】

主任教授：山本 新吾（指導責任者）、教授：野島 道生、准教授：兼松 明弘
講師：鈴木 透、呉 秀賢

【研修統括者】

主任教授：山本 新吾（専門：悪性腫瘍/腎移植/小児泌尿器科/感染症）

【問い合わせ先】

医局長：兼松 明弘
TEL：0798-45-6366
FAX：0798-45-6368
E-mail：aqui@hyo-med.ac.jp